

平成16年度 参画・協働推進フォーラム実施状況一覧

[資料4]

県民局名	神戸生活創造センター	阪神南県民局	阪神北県民局	東播磨県民局	北播磨県民局	中播磨県民局	
フォーラム名	神戸地域参画・協働推進フォーラム	阪神南地域「参画と協働」推進フォーラム	阪神北地域県民フォーラム(仮称)	こころ豊かな美しい東播磨推進会議総会 こころ豊かな美しい東播磨をめざす実践推進大会 「参画と協働」東播磨県民フォーラム(仮) 男女共同参画推進フォーラム	「参画・協働」北はりま推進フォーラム	中播磨参画・協働推進フォーラム	
開催日時	8月3日 13:15~16:10	6月20日 13:30~16:30	11月23日(火祝)	6月14日(月) 11月11日(木) 10月27日(水)	9月11日 13:30~16:30	7月30日 13:30~15:45	
開催場所	神戸生活創造センター 6階講座研修室	尼崎市立小田公民館 学習室2及び3 尼崎市瀬江1丁目11-1-101(ラ・ヴェール尼崎2階)	三田市総合福祉保健センター(三田市川除675)	加古川総合保健センター 3階大会議室 加古川総合福祉会館大ホール 明石市立市民会館中ホール	滝野町文化会館大ホール(加東郡滝野町下滝野1369-1)	姫路市自治福祉会館1階会議室	
人数	50名	60名	300名	90名 200名 450名	約300名	50名	
実施内容	主な内容	13:30 開会(10分) 13:40 プレゼンテーション(20分) 「県民の参画と協働の推進」 ('支援指針」「推進計画」における 今後の展開方策について) 藤原課長 14:00 グループディスカッション(90分) 「グループ活動で暮らしの課題に取り 組もう」 清水 勲夫 14:30 グループワークの実際「グループ づくり」 清水 勲夫 16:30 まとめ 清水 勲夫	未定	1.東播磨推進会議 事業報告、事業計画等 2.ため池ミュージアム事業説明 3.「支援指針」「推進計画」説明 1.県知事表彰 2.参画と協働に関する講演 3.パネルディスカッション 4.意見交換・質疑応答 1.表彰(自治賞、こうのとり賞、くすのき賞) 2.参画と協働に関する講演 3.パネルディスカッション	13:30 開会(10分) 13:40 表彰式(30分) (自治賞、こうのとり賞、くすのき賞等) 14:10 プレゼンテーション(40分) 講師:遠見順一郎 15:50 休憩(10分) 15:00 パネルディスカッション(70分) パネリスト:木村局長 他3名 コーディネーター:遠見順一郎 16:10 意見交換、質疑応答(20分) 16:30 閉会	14:20 中播磨推進会議総会(20分) 14:40 休憩(10分) 14:50 参画・協働推進フォーラム開会 14:50 プレゼンテーション(30分) 講師:沖本係長 15:20 意見交換(15分) 15:35 参画・協働推進フォーラム閉会	
	講演者	遠見順一郎(子ども会連合会常務理事)	清水 勲夫(OAA(兵庫県野外活動協会)専務理事、事務局長)	未定	藤原課長 木村局長 清原理事	プレゼンテーション:遠見順一郎 パネルディスカッション:木村局長 小野市河合地区 区長 滝野東里づくり協議会会長 原始人会 会長	沖本係長
	討議方式	グループ討議方式	グループ討議方式 6~8名程度のグループ 毎に分かれ討議を行なう。	その他(全体進行型)	その他(事業説明) パネルディスカッション方式 その他(事業説明)	パネルディスカッション方式	その他(全体進行型)
主な意見	・ものの豊かな時代になって、大きなモノを失った。子どもたちが友達と遊ばなくなった。複数で遊んでも、マンガを読んだり、ひとりゲームをして、結局ひとりであるのと同じである。 ・情報が誰にでも、手に入るようになって、加古川の事件など、大人が知っていることは、子どもも知っている。ただ、子どもたちは、そのニュースを真に受けたいので、してはいけないということをお大人たちがちゃんと伝えなければならない。 ・これまで地域のことは、行政がやってくれたていたが、最近では、それぞれに個性が出てきて行政の施策が網にかからなくなってきた。 ・これからは、それぞれの視点のなかで地域づくりをめざすことが必要。みんな何ができるか、地域のビジョンを持つことが重要である。 ・それぞれが地域づくりをめざすときに、共通の大きな課題が出てきたら、そのときは行政の出番である。 ・重要なことは一歩踏み出すことである。3人集まれば活動ができる。 ・活動がすべてうまくいくと思うのは間違い。失敗を乗り越えていくこと、失敗を糧にすることである。	・グループづくりをうまく行うためには、対人関係を大切にすることが必要である。 ・参画と協働の主役は県民ということだが、参画ばかりが先行している。もっと、一緒に働くことを進める必要がある。 ・協働のスタンスを広めるには、地域の思いを浸透させる必要がある。 ・みんなで何かをやり遂げる達成感を味わえ、喜びを感じあえるようなグループ活動を育成していく必要がある。 ・市民としては、企画段階から「いっしょかみ」を実行することが大切である。			・家族、親子、大人、子ども同士のコミュニケーション不足と能力の低下している。 ・感情のないメールの普及、コンビニの発達、社会の変化などが影響している。 ・地域のつながりが疎遠になり、地域への解決策が見いだせない。 ・地域コミュニティの重要性...地域社会、住民自らが気づかなければならない。 ・地域の人たちが地域の取り組みとして、いろんな視野から地域を考えていくことが参画・協働の原点ではないか。 ・自分たちが地域を考えたとき、互いに共有できるか、また共有できるモノを生み出す会議が運営できているか、また会議が弾んでいるか。 ・地域にはさまざまな人がいて、多くのグループが活動しているが、互いにアンテナを建てて特色、特長を生かしつつ、その共有する部分を基盤にして、参画と協働による地域をよりよくするため取り組むことが重要である。 ・安心して安全なまちづくりができると、お互いの顔の見える地域ができる。	・条例を制定し、「指針」「計画」を策定したことは大変意義深いことである。 ・これまでは、行政に対して要求ばかりで、地域のことは地域で考えるという意識が薄かった。 ・姫路は自治会や婦人会などの活動が盛んであり、例えば、防犯パトロールは10年以上も続いている自治会もある。 ・中播磨地域の活動についても、高齢化・固定化といった問題があるが、このような問題を解決するためにも、今日のフォーラムは意味のあることである。 ・これからは、行政の補助金だけに頼るのではなく、これまで以上に知恵を出し合い、汗をかいていこうと思う。一方で、行政は我々に任せきりでなく、地域のためにともに取り組んで欲しいと思う。 ・地域づくり活動応援事業を続けていけば大きな成果が出てくると思われる。 ・地域というのは、子どもからお年寄りまでの中で、それぞれの役割をどう果たすかであると思う。 ・こころ豊かな美しい中播磨子ども会議ができたらいいいと思っている。その子ども会議が「参画と協働」をテーマに、いろんなことが企画され、展開されたいいいと思う。 ・地域で活動する団体とのネットワークづくりの促進のため、ボランティアネットワークセンターのようなものがあるといいと思う。 ・「参画と協働」の考えについて、県民一人ひとりにくまなく伝えていくためには、どうすればよいかという疑問がある。テレビ、ラジオなどのメディアの他、兵庫県体を活用して考え方を広げてほしい。	

県民局名	西播磨県民局	但馬県民局	丹波の森公苑	淡路県民局	若い世代を対象としたフォーラム		
フォーラム名	こころ豊かな美しい西播磨推進会議 研修交流会	但馬地域参画・協働推進フォーラム	「参画・協働」たんば推進フォーラム	参画と協働の推進淡路県民フォーラム	大学生フォーラム2050の場の活用	阪神ブロック子ども会連合会フォーラム	
開催日時	7月9日 14:00～15:40	7月22日 13:40～14:20	4月27日 14:30～16:00	7月27日 13:30～16:30	11月～12月	10月30日	
開催場所	西播磨総合庁舎 2階会議室2・3・4	但馬文教府	丹波の森公苑多目的ホール	みくまホール(洲本市海岸通1-11-1 洲本ポートターミナル3階)	未定	丹波地域	
人数	80名	30名	100名	130名	20名程度	未定	
実施内容	主な内容 14:00 総会(30分) 14:30 休憩 14:40 プレゼンテーション(30分) (進行 沖本係長) 15:10 意見交換(20分)	13:40 プレゼンテーション(30分) 講師:沖本 浩通 14:10 意見交換、質疑応答(10分)	14:30 開会 14:30 プレゼンテーション(20分) 「支援指針」「推進計画」説明 講師:沖本係長 14:50 講演(60分) テーマ:「地域で取り組む「参画と協働」」 講師:中川幾郎 帝塚山大学大学院 法政策研究科教授 15:50 質疑応答・意見交換(15分)	13:30 開会 13:40 講演(60分) 「参画と協働による地域づくりを考える」 講師:山下淳 14:40 休憩 15:00 パネルディスカッション(70分) 16:10 意見交換・まとめ(20分) 16:30 閉会	1交流会の進め方説明 2自主研究の概要説明 3グループ討議 4昼食 5グループ討議 6発表及び意見交換 7まとめ	未定	
	講演者	沖本係長	沖本係長	中川幾郎(帝塚山大学大学院法政策研究科教授)	山下淳(同志社大学大学院総合政策科学研究科教授)	未定	速見順一郎(子ども会連合会常務理事)
	討議方式	その他(意見交換)	その他(プレゼンテーション後、意見交換)	その他(意見交換)	パネルディスカッション方式	その他(グループ討議)	未定
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 「参画と協働」はともに進んでいかないとはいけませんが、何をしたらよいか見えてこない。 少子化や高齢化で地域の団体の役員のなり手が少なくなっている。 地域レベルでは活動せざるを得ないが、市町域、県域レベルとなると役員の仕事も大変であるため、どうしたらよいかと思っている。 今までは、行政に従っていればよいと思っていたが、これからはそうではないことが分かった。 コラボネットのシステムは素晴らしい。情報の共有は大事なことであり、「参画・協働」の基本である。今後とも、充実させていきたい。 今は、インターネットで情報が入ってくる時代であり、若い人はポストのように使っているが、高齢者はそうはいかない。 条例による地域協働事業の推進と、学校がその中でどのように位置づけられ、また、どのような役割を果たしているのかを考える機会となった。話された内容・資料について、学校で検討したい。 参画と協働は、社会の大きな「うねり」の中で最良の方法であるが、多くの県民が「奉仕しよう」と考えてもすぐに行動ができない(行動に移せない)人が多い。活動例をテレビ等で県民に知らせ、大きな県民運動にしてもらいたい。 県の予算が徐々に減少する中で、県民の奉仕により、多くの方が享受できる社会建設を期待する。 県や市からの補助金をもらうために、行事が多くなってきた。しかし、少し整理する必要があるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 「まちの子育てひろば」の県の助成が、今年いっぱい打ち切りになるが、今後も各町や地域と連携して、他の形で活動が続けばいいと思う。 たじま「子育て」ネットが設立されたが、どのように活動すればいいのかわからない。 活動してみたいという気持ちが湧いてきたが、具体的な取り組み例を知りたい。どこに相談すればいいのか教えて欲しい。 隣近所が知らない仲になるより、お互いが助け合い、協力しあうことにより、子どもたちにとって、将来明るい未来の先がけになればと思う。 地域又は集落単位などに、子育て相談員を設置し、訪問して相談できるようなシステムの設置を要望する。核家族の中で、どこに相談すればいいのかわからない母親が多い。 市町と県とのつながり等を知りたい。(例えば、子育て広場の件等) 一人一人の気持ちを県政に生かしていけるやり方は、大変良い事である。自分にやれること、やりたいことを見つけ、町民へ働きかけ、輪を広げていきたい。 県にはたくさんの推進員や助成があるが、情報がまちまちで、具体的に活動しようと思ってもどこに尋ねたらいいのかわからない。どこから情報を得たらいいのかわからない。情報発信等もう少し県民にわかりやすくできないものか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「参画と協働」と書かれたテーマに「働」という字が入っているのと、協力の「協」が入っていたことに驚かされた。 今後も活動を継続していくことに自信が持った。しかし、若い者を入れていかないと続けていけない現状がある。 新しい活動を立ち上げる予定だが、(行政の)参画と協働に期待している。 今の段階ではしかたがないのだろうが、観念的論ばかりであった。実践例があれば良い。 今後の活動に対する多くのヒントがあった。 住民の意識に大きな違いがありすぎる。もっとリーダーシップを発揮する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくりのエンジンは県民であり、行政主催のフォーラムはエンジンオイルである。オイルが悪かったらオーバーヒートしてしまう。さらによいオイルの提供をお願いします。 県民と県民のネットワーク、県民と行政のネットワークに加え、県民の活動を支援するためには、行政と行政(県と市町等)のネットワークも重要ではないか。地域住民に、より身近である市町に役割を渡していかないと、地域住民と県行政では距離を感じてしまう。 地域団体の活動情報を発信し、様々なノウハウを吸収するため、パワーアップ事業の事例報告会のような場を、県や市町主催で設けてほしい。 県民同士のパートナーシップは、淡路地域では他の地域より比較的強いと思う。参画と協働の推進において、どの部分に力点を置くかは地域によって異なるので、地域ごとの独自性を活かせる行政の支援をお願いしたい。 地域づくり活動という概念が漠然としている。福祉、環境、文化、まちづくりなど、全ての活動を同列で考えるのではなく、本当に県民主役で進めるべき活動は何なのか、ということを見直す必要がある。 パワーアップ事業のような支援制度は、財政基盤が脆弱な団体にとって非常にありがたい制度なので、今後も継続をお願いしたい。 指針や計画の策定でもって成果とするのではなく、行政、県民ともに、現況を常に確認し、見直す作業を行っていくことが必要だと思う。 			